

## 大型真円核施術貝の真珠形成

井戸本 純一

### ◆背景・目的

淡水真珠養殖業の不振の原因として、環境悪化による母貝の成長不良に加えて、中国産淡水真珠の参入による市場競争の激化が挙げられる。淡水真珠の新たな付加価値として大型真円真珠の安定生産技術の確立をめざし、大型真円核の施術による淡水真珠の形成能を調査した。

### ◆成果の内容・特徴

- 内蔵隆起右側面の筋肉を切開して真円核（直径約8mm）をピース細胞とともに挿入し、体前方の肝臓付近に定位させた。
- 平成11年に施術した貝の一部（30個体）を解剖して調査したところ、すべての個体で真珠の形成が認められた。
- 真珠の形成量（真珠重量－核重量）は、殻長（147～178mm）にくらべて貝殻の重厚な個体ほど多い傾向が認められた。

### ◆成果の活用・留意点

- 内臓への挿核によって真珠の形成が可能であることが確認されたことにより、付加価値の高い淡水真珠生産技術の確立が期待される。
- 1個体当たり1個の生産となるため、高品位な真珠の産出確率を高めるためには最適な挿核位置などについてさらに詳細に検討する必要がある。
- 真珠の形成は貝の成長に依存するため、漁場環境の改善技術や貝殻の厚い母貝の育種などに重点的に取り組む必要がある。

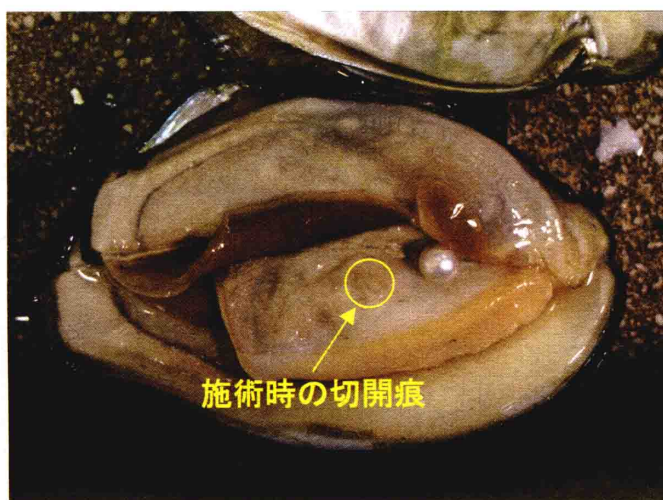


図1 施術貝の軟体部の外観と真珠形成部位(真珠は取りだしたもの)。

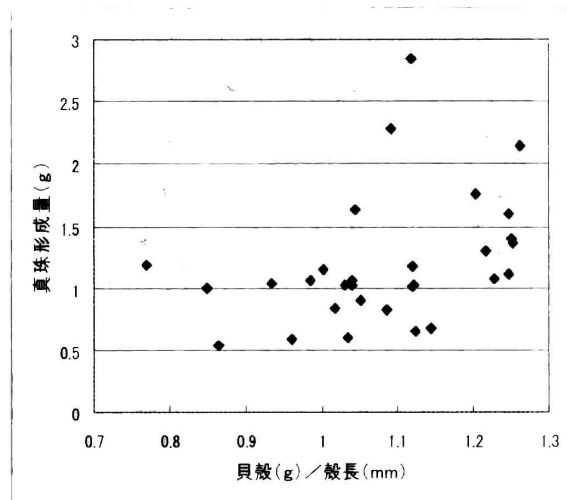


図2 貝殻の重厚さと真珠形成量との関係。